

会 議 議 事 録

			記 録 者	主幹 染谷 優一	
供 覧	部長	課長	補佐	係長	課員
件 名	平成28年度第4回龍ヶ崎市総合教育会議				
日 時	平成28年11月16日（水） 午後1時30分から午後2時45分				
場 所	龍ヶ崎市役所5階 第1委員会室				
主 催	中山一生市長（事務局：企画課地域戦略グループ）				
出席者	中山市長，平塚教育長，斎藤教育長職務代理者，高橋委員，大野委員，鈴木委員 川村副市長，松尾総合政策部長，宮川企画課長，大貫課長補佐，記録者，荒井教育部長，足立教育総務課長，重田教育総務課長補佐，岡野係長，黒田生涯学習課長，小貫指導課長，北澤スポーツ推進課長，大和田給食センター所長，辻井教育センター所長				
欠席者	なし				
傍 聴	3人				
議 題	1 開 会 2 市長あいさつ 3 議 題 （1）（仮称）龍ヶ崎市教育プラン（案）について （2）龍ヶ崎市の新しい学校づくり審議会について 4 その他 5 閉 会				
情報公開	公開	非公開（一部公開を含む）とする理由		（龍ヶ崎市情報公開条例9条 号該当）	
	部分公開 非 公 開	公開が可能となる時期（可能な範囲で記入）		年 月 日	

事務局	<p>それでは、定刻でございますので、ただいまから平成28年度第4回龍ヶ崎市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>なお、当会議におきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律によりまして、公開ということとなっておりますのでよろしくお願いいたします。それでは、開会に当たりまして、中山市長よりご挨拶を申し上げます。</p>
中山市長	<p>はい、改めまして、皆さんこんにちは。皆様、本日は、龍ヶ崎市総合教育会議に御出席をいただきまして、ありがとうございます。10月26日の総合教育会議に引き続き、2か月連続での総合教育会議ということになってしまいましたが、お忙しい中、御協力をいただきまして、感謝申し上げます。</p> <p>また、総合教育会議の開催状況について、龍ヶ崎市では、すでに昨年度4回、本年度も現時点で4回の会議を開催しております。また、市町村の情報など漏れ聞こえてくる所によりますと、おそらく、他市町村と比較しても、多く開催をしているのではないかなと感じている所でもございます。その点に関しましても、皆さんの御理解、御協力に感謝申し上げます。これは、ひいては龍ヶ崎市は他の市町村よりも、教育委員会と市長部局の連携を強く図られていると考えられる所でもありますので、今後も教育委員会と市がしっかりと連携を図りながら、龍ヶ崎市の子どもたちの教育環境の充実に努めて参りたいと考えておりますので、教育委員の皆様におかれましては、引き続きの御協力、御尽力をお願い申し上げます。</p> <p>さて、本日の議題でございますが、次第にもありますように、2つの案件がございます。</p> <p>一つ目は、(仮称)龍ヶ崎市教育プラン(案)についてでございます。こちらは、前回の総合教育会議で教育振興基本計画(素案)について、いただいた意見などを踏まえ、加筆・修正などを行い「序章」「教育大綱」「教育振興基本計画」で構成される(仮称)龍ヶ崎市教育プラン(案)として一つに取りまとめた所でございます。この教育プラン案について、教育委員の皆様には忌憚のない御意見、御質問など改めていただきたいと考えております。</p> <p>なお、参考までに今年度は、現行の最上位計画である「ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」の最終年度となっております。次期最上位計画の策定に合わせて、他課などで計画の策定作業をしている所でもございます。従来までは、計画期間などに統一性がなくて、中身に関しては整合性をとるように努力してきた所ですが、期間や施策時期などが変わりますと、内容が少しちぐはぐになるような所もあったのですが、この点を次期最上位計画の策定にあわせて、主要なプランの整合性を図っていく取組をしている最中でございます。今年度に策定作業している計画としては、第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プランをはじめ、教育プランも含めて12もの計画の策定作業を進めている所です。このため、4月からは最上位計画を筆頭に新たな計画に基づく取組を進めていくこととなります。</p> <p>議題の二つ目は、龍ヶ崎市の新しい学校づくり審議会についてでございます。こちらは、11月8日に第3回目の審議会が開催されたことに伴い、そのときの主な御意見などの御報告をさせていただき、小中一貫教育や様々な課題についての共有を深めて参りたいと考えております。</p> <p>いずれの議題についても、各担当から説明の後、教育委員の皆様方から御意見、御質問などをいただきたいと考えております。</p> <p>最後になりますが、龍ヶ崎市の教育環境の充実が図れることを心から期待をしながら、私の挨拶を終わらせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました、それでは議事に入りたいと思います。議事につき</p>

	<p>ましては、主催者であります中山市長、よろしくお願いいたします。</p>
中山市長	<p>はい、それでは、総合教育会議の議事進行を務めさせていただきます。本日の議題であります、会議の次第にもごさいますように、2つの案件について、委員の皆様にご意見、御協議をいただきたいと思ひます。</p>
教育総務課	<p>また、本日の会議時間につきましては、午後3時に終了を予定しておりますので、委員の皆様方におかれましては、慎重審議の上で円滑な進行につきまして、御協力をお願い申し上げます。</p>
中山市長	<p>それでは、議題1の(仮称)龍ヶ崎市教育プラン(案)について、担当より説明をお願いいたします。</p>
中山市長	<p>(資料に基づき説明)</p>
中山市長	<p>はい、ただいま説明があった内容について、皆様の御意見、御質問等をお願いいたします。皆さんからいただいた御意見はきちんと反映されておりますか。その辺の確認も含めて、よろしくお願いいたします。</p>
鈴木委員	<p>前回、私が59ページに新規で追加ということで、少し無理なお願いをしてしまったのですが、「ワーク・ライフ・バランスを図りながら、生き生きと働くことができる職場づくり」と非常に良く書いていただきまして、ありがとうございます。それと、数値目標の方も、独自に新たに調査されたのですか。</p>
教育総務課	<p>はい。</p>
鈴木委員	<p>ありがとうございます。</p>
高橋委員	<p>本当にお疲れさまでした。こうして全体で見ると、かなり形になっていて、大変だっただろうと本当に率直に思ひます。写真の方とか、カラーリングも入りまして、かなり内容的には網羅されているのですが、中身の割には読みやすいものになっていて、たくさんの方に読んでいただけるような良いものになったと思ひます。</p>
斎藤教育長 職務代理者	<p>前回申し上げた順序の問題とか、言葉も大分修正されて、大変読みやすくなったと思ひます。大変だっただろうと思ひます。</p>
	<p>今回の資料を読んだ中で、気になった部分がありました。少し数が多いのですが、私の読んだ感想を含めてお話しさせていただきますので、よろしくお願いいたします。もう最終段階に入ってきているということなので、言葉も大事にしていきたいと思ひました。</p>
	<p>一つ目は43ページです。一番下の「⑤学校図書館の充実」という所の2行目の「生涯にわたって学び続ける基礎的な力や人間性を育みます」という部分です。分かることは分かるのですが、学び続ける基礎的な力と、人間性を育むというのは、少し並列的で抽象的に感じました。もう少し、何か具体的な書き方が望ましいのではないかなと思ひまして、全て人間性だとなってしまうように感じます。</p>
	<p>あとは、52ページの一番下の「②龍・流連携事業の拡充」の最後の部分ですが「児童生徒及び大学生の移手段の確保を図ります」という所が分かりにくい感じがしました。流通経済大学との連携強化に「小中学校の教育の充実を図るとともに、児童生徒及び大学生の移手段の確保を図ります」というのが、何が目的なのか、少し見えないような感じがしました。</p>

	<p>あとは、53ページの「④小学校間・中学校間の連携強化及び小中学校と高等学校との連携」について、「高等学校との連携により、児童生徒へ専門的かつ高度な学習機会を提供します」とありますが、連携によって専門的かつ高度な学習機会を提供するのが主なのかなと思いました。</p> <p>あとは、58ページの現状の一番最後です。後半にいわゆる教職員の長時間労働が問題になっていると「児童生徒と向き合う時間を確保できないなどの課題が生じている」とありますが、時間が確保できないのが課題ではないと思います。向き合う時間は、ある程度持てているのではないかと思います。そのための環境が足りなかったり、または、その指導のために教材研究が不足していたり、または、その準備不足が多々あるということで、接する時間が少ないということと少し違うような思いがして、今のアンケートからそう読み取るのかどうか少し分かりにくかったというのが私の思いです。</p> <p>あとは、60ページの現状の所です。最初の四角の文章でよく分からないのですが、後半に以前は中学生の子どもを持つ保護者も対象にしている、今、これは中学生の子どもを持つ保護者は対象にしてないという意味でしょうか。</p> <p>あと、同ページの四つ目の四角の所ですが、「より良い学習習慣を形成するために」という中で、「家庭での取組が大切であることから、11月の龍ヶ崎教育月間では、家庭での教育の取組を促進しています」については、前の文章との絡みで、11月だからこそ何かということなのだろうと思うのですが、普段これを大事にしていること、11月ではどうなのかということも読み取ってしまうのです。そうすると、何に視点を当てるのかと、特にこの11月だからこそ何かをするのか、それが前の文章との絡みで少し気になった所です。</p> <p>あと、78ページです。「郷土学習を推進します」という、大きな具体的施策があるわけですが、前の方に子どもたちの文化のために、スタンプラリー的なものとか、郷土学習が書いてあったりするわけですね。せっかく今年もスタンプラリー的なものもやって、大変好評だったこともあり、ここでも何か触れなくていいのかという思いがします。それは、前半に少し書いてあったのですが、この所には重複するかもしれませんが、前と同じように記載したほうがよいかと思いました。</p> <p>以上、細かい所で申し訳ありませんが、少し気付いたことを申し上げました。</p>
荒井教育部長	<p>すぐに修正できる内容のものであればお答えできますが、できないものについては、この後、また内部で検討したいと思います。</p>
教育総務課長	<p>それでは、まずは教育総務課に関連したことを申し上げたいと思います。御指摘の43ページの「⑤学校図書館の充実」で「基礎的な力や人間性を育みます」の所です。おっしゃるように人間性を育むというのは、義務教育どころか、大人全般に言えることで、あまりにも抽象的、大きすぎるかなというように感じておりますので、適切な部分について、もう一度検討させていただきたいと思います。</p> <p>続きまして、59ページです。下の1行目の指標を新たに追加したものであります。学校の教職員の80時間以上の時間外勤務を行った小中学校の教職員の割合ということで、こちらはこの指標を掲載するに当たり、庁内の関係各課で集まるワーキンググループでもこれでいいのだろうかとか一番時間を割いた所です。あと教育委員会内部でも、一番議論した点、一番時間を割いた点です。時間外を行うことが悪いのではなく、部活動も含めて先生が負担になっている、なっていない、子どもと向き合う時間が本当は必要なんだということは、時間外と結びつかないのではないかなというような議論が色々ありました。だからといって、ただ一つの指標として、どうしても何も載せないというわけではなく、</p>

	<p>一番解決していかなくてはならないのは、時間外が増えることによって、子どもたちと接する時間が今の時間外の増える要因として、子どもとの時間ではなく、部活動や保護者、地域との話し合っている時間、または色々な御相談、御要望やお叱りを受けている時間が多くなっているというような要因がありますので、まずは、その時間を減らすという一つの指標として、この時間外というのを使っていこうという意思の形になりました。こちらにつきましては、年々ではなく、毎月こういう指標の調査をして、変化を見ていきたいと思っております。単純に、学校での仕事が減ったから、先生の負担が減るというわけではないですが、一つの指標として、こちらは追いついていきたいと思っておりますので、ぜひ掲載させていただきたいと思っております。</p>
生涯学習課	<p>60 ページで「以前は中学生の子どもを持つ保護者も対象にしていました」という記載ですが、現在は、中学生の保護者は対象にしないということなので、表現の仕方については、もう少し考えたいと思えます。</p> <p>それと、その下の「家庭で教育の取組を促進しています」という所ですが、11月の教育月間が子どもたちの教育について考えるという取組を市民みんなで考えるというような考え方ですので、そういったことを踏まえた記載に修正できたらと考えております。</p> <p>加えまして、79 ページになりますが「郷土学習を推進します」という所でフォトラリーの取組について、記載をしてはどうかというような御提案でしたが、私どもの方でも学校と協力を図っておりますので、記載を付け加えさせていただければと思います。</p>
指導課	<p>指導課案件につきまして、御説明いたします。52, 53 ページの所です。</p> <p>まず「②龍・流連携事業の拡充」につきましては、企画課と連携する中で、今後、連携を拡充していくためには移動手段の確保が課題になっている等の報告がございましたので、そちらを課題として入れさせていただきました。</p> <p>次に「④小学校間・中学校間の連携強化及び小中学校と高等学校との連携」の最後の高等学校との連携の部分ですが、現状、小中高連携の中で行われている取組といたしまして、高校生が小中学校に出向きまして、教科指導の中で学習サポートをする、夏休みの学習サポートを行う、自由研究等の助言を行うという内容がございます。また、小中学生が高等学校の様々な行事等に参加いたしまして、そこで交流を図ったり、高校生が学ぶ姿を見る機会もございますので、今回このような表現を入れさせていただいているという状況でございます。今後もそのような連携を強化できればと考えている所でございます。</p>
企画課	<p>今の同じ龍・流連携の部分で、移動手段の関係ですが、流通経済大学の場所をイメージしてもらおうと分かりますが、色んなボランティアですとか学習支援などで大学生が小中学校にお邪魔したりするケースがございますが、大学生は、免許証など持っていないケースが多く、例えば、ニュータウン方面の小中学校に行くにも、交通手段としてどうやって移動すればいいかが課題でございました。そういったことで、今回タクシー券やバスの券とかそういう移動をするのに使ってもらおうようなことでやっておりますが、そういった交通手段の確保ということです。それから、子どもたちの場合は、小学校、中学校から大学まで行くケースがありますが、それについての移動手段という意味合いで書かせていただいた所です。</p>
中山市長	<p>分かりやすいように修正していただければと思います。また、これも宿題の部分もあるかと思いますが、今の説明に対して何かございますか。</p>

高橋委員	<p>すみません、そのように細かく見ていくと、そのさっき 58 ページの現状の一番下の所の問題があるのではないかと斎藤先生のおっしゃることは、ごもっともだと思っておりますが、これを読んでしまうと全ての先生方が児童生徒と向き合う時間が確保できないみたいなことにも読めてしまいます。もし、直していただけるのであれば、全国的な問題になっており、児童生徒と向き合い、時間が十分に確保できないなどの事例があるみたいな形で、向き合っている先生もいらっしゃるでしょうし、問題なくこなしている先生もいらっしゃるのでは、現状がどうであるというような所をこのように書いてしまうと、全てがそういうふうに勘違いをされる方がいらっしゃるのでは何かもったいないかなと思いますので、直す際はそちらも併せて考えていただければと思います。</p>
中山市長	<p>今の点に関しても誤解を生じないような書き方にさせていただくということでよろしく願いいたします。今の説明に関しては、ここまでとしてよろしいですか。</p> <p>それでは、この後の予定としては、パブリックコメントの実施を予定していますので、皆さんに持ち回りで見ていただくような形でよろしいですか。</p>
(一同)	はい。
中山市長	<p>はい、またその際にも御指摘いただいて、より良きものにブラッシュアップさせていただければと思いますので、そのような形で進めさせていただきます。教育長、そういうことでよろしいですか。</p>
平塚教育長	<p>この教育大綱と教育振興基本計画は、何回も読んでいると、文言にはもう慣れてしましまして、この言葉はこんなものだなと思ってしまうので、初めて市民の方が目に触れたときに、言葉の解釈がないと少し読み込めないなというのがたくさんあるのではないかと思います。例えば、インクルーシブ教育という表記が出てきたときに、どこに書いてあるのかを探すのに、時間がかかってしまうと思います。それからクラブドラゴンズの部分でも、もう少し市民目線で、この文言が専門用語だったら、やはり説明すべきであるし、分かっているようでも解釈が違うのだったら、その解釈の仕方について、やはり注釈を入れるとか、そういうことをもう一度見直していただければと思います。</p>
中山市長	<p>はい、この点に関しては何かありますか。よろしいですか。注釈に関しては、ページが開いた場合は、もう一度再掲にするようなこともよく色々な文献でも見られますので、全て出すのは、煩雑になるかもしれませんが、そういう工夫もしていただければいいのかなと私も思いました。他にございますでしょうか。</p>
大野委員	<p>少し確認したいのですが、小中一貫教育の推進が重要取組ということで、所々に出てくるかと思うのですが、児童生徒のことを中心に考えて取組事項などを設定していると思います。44 ページの教職員についてですが、その資質とか指導力の向上ということで、研修等が入っているかと思うのですが、資格の問題というか、小学校、中学校の資格を片方しか持っていないですとか、そういったことのサポート体制というか、小中連携を推進していく上で、教職員がスムーズに小中学校を行き来できるような体制、教育環境というのが、どこかに入っているのかどうかというのを確認させてもらえればと思います。</p> <p>もし、そういう資格の取得のサポート体制をしつつということでもいいのかと思います。</p>

<p>指導課</p>	<p>はい、大野委員の御指摘の通り、平成12年度より、茨城県の場合は小中校種別採用になっておりますので、小学校の免許、中学校の免許のみの職員も、本市の方にも、在職しているという現状がございます。ただ現状は、県の方からの指導もありまして、それぞれ小学校、中学校の免許しか保持していない職員につきましては、それぞれ通信教育等で免許取得の努力をしているという状況でございます。市として、それについてサポートするとなりますと、予算面等も含めて様々な課題もございますので、研修等の充実を通して、両方の免許を取得が重要であるということを知りながら、指導していく、助言していくという方向が現状できることとして捉えている所でございます。</p>
<p>大野委員</p>	<p>個人的な問題と思ったのですが、そのような研修を通してやっていただければと思います。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>今回の資料では、右上の所に新たに英語で表記されましたが、私も英語は得意ではないのですが、これについては、ネイティブチェック済みですか。と言いますのも、英語にすると、ニュアンスが変わってしまうのかなと思って眺めていました。例えば、子どもの健全育成の健全育成は、Healthy Development (ヘルシー・ディベロップメント) なのですが、単なるHealthy (ヘルシー) ではなく、もう少し福祉的な要素も含まれているので、少しニュアンスが違うのかなと思ってみました。</p> <p>あと、生涯学習の推進は、Furtherance of Life Stydy (ファーザアラァンス・オブ・ライフ・スタディ) の生涯学習がLife Stydy (ライフ・スタディ) でいいのかなと思いました。</p> <p>また、文化芸術の振興は、Promotion of Culture Art (プロモーション・オブ・カルチャーアート) とありますが、Culture Art (カルチャー・アート) でいいのか、Culture and Art (カルチャー・アンド・アート) なのか、この辺のものすごく細かい表記が気になってしまいました。</p>
<p>教育総務課</p>	<p>まず、英語表記の部分については、再度確認したいと思いますが、Culture and Art (カルチャー・アンド・アート) については、and (アンド) を省略してもいいし、入れてもどちらでもいい伝わるので、英語での表記を長くせず短く、分かりやすくと思い、Culture Art (カルチャー・アート) という形で表記をしている所でございます。Healthy (ヘルシー) の所については、この表記でいいのかどうかは、再度確認したいとは思いますが、</p>
<p>中山市長</p>	<p>はい、ネイティブチェックということで、よろしく願いいたします。ほかにもございますか。私は、もう視覚的な所でいつも申し訳ないですが、40ページの図の線を文字にかぶらないようにしたのはいいのですが、基本方針4とか基本方針1の所が特に顕著なんです、その線があたかもこの基本方針4のように見えてしまうので、枝の幹の所の青い線の下に基本方針4とあると、この基本方針4が青い線なのか下のピンクの枠なのか混同してしまうような感じがします。上に見れば小さく書いてあるのですが、上のグレーの枠にもう少し寄せてみたらどうかと思いました。基本方針1についても、黄色い線があたかも基本方針1の線のように、少し見えてしまうのではないかと思いました。枠の幹に元の図を見ると幹に書いてあるので、その位置と被っているから少し紛らわしいのかなと思いました。図を動かすのは面倒かもしれませんが、もう一度検討してみてください。</p>

高橋委員	四角の枠の基本方針1というのが、元々の基本方針1の大きさであって目立てば、この枠に書いてある基本方針1,2,3,4,5はいらないのではないかと思います。2つ書いてあるから余計ややこしくなるので、片方取れば見やすくなるのではないかと思います。
中山市長	はい、そういう御意見もありました。元の図を少し踏襲しながら線を入れたので、こういう形になってしまったのだと思います。
高橋委員	そういうことですね。ですから、この元の枠に書いてあるものと四角の枠のものが一致すれば良いわけですね。
中山市長	はい、その辺を少し見やすく直せるのであれば、直してください。ほかにありますでしょうか。それでは、議論も出尽くしたようですので、これに関しましては、この程度にいたしまして、あと今、御指摘いただいた点で修正する部分があった場合は持ち回りということによろしいですね。
(一同)	はい。
中山市長	それでは、持ち回りで委員の皆さんには見ていただくということでございますので、引き続き、その点に関してもよろしくお願いを申し上げます。 また、先ほど説明にもありましたが、原案は（仮称）龍ヶ崎市教育プラン（案）でございますが、（仮称）をとりまして龍ヶ崎市教育プラン（案）とする方向で、今後進めて参りたいということでしたが、そのような方向でよろしいでしょうか。
(一同)	はい。
中山市長	それでは、龍ヶ崎市教育プランの先頭にある（仮称）をとりまして、龍ヶ崎市教育プラン（案）については、原案を基本としながら、今後パブリックコメントなどの手続に入らせていただきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いを申し上げます。 次の議題に移らせていただきます。龍ヶ崎市の新しい学校づくり審議会についてでございます。担当から説明をお願いします。
教育総務課	（資料に基づき説明）
中山市長	はい、ただいまいただいた意見等を報告していただきましたが、今の説明の内容につきましては、3回目の審議会が開催されたということで、今後も継続的に総合教育会議に報告させていただきたいと思っております。龍ヶ崎市の小中一貫教育の推進に向けて、委員の皆さん、市民の皆さんも含めて理解を深めて参りたいと考えておりますので、よろしくお願いをいたします。今の説明について、御意見、御質問等があればお願いをいたします。
高橋委員	資料2にある11月22日（火）の春日学園の研究大会が添付されていますが、どなたか御参加される予定ですか。
教育総務課	資料にあります研究大会については、委員の皆様にも御紹介した所ですが、今回参加のお申込はありませんでしたので、教育委員会として参加したいと思っております。



<p>中山市長</p>	<p>はい、ほかにございますでしょうか。私からも少し質問させていただきますが、小中一貫教育に向けての話の中で、適正規模の話はどのような形で意見等があったか。これまでの経緯として、分かる範囲で結構ですので、教えてください。</p>
<p>教育総務課</p>	<p>第1回目の新しい学校づくり審議会を開催した際に、6年前の適正規模適正配置の審議会からの答申と教育委員会が決定した基本方針について、説明しました。適正規模については、小学校で各学年2クラス、中学校で3クラスというのは、何でそういうクラスなのかという御説明を含めまして了解、適正規模については、それを踏襲するというような認識でおります。適正配置については、もちろんまだ協議はしていません。</p>
<p>中山市長</p>	<p>はい、ありがとうございます。適正規模というのも、この小中一貫を進めていく上では、重要なファクターの一つになるだろうと思います。その辺も今後の議論の中で、色々な御意見をいただく所になると思いますが、配置の方は、また色々な問題があると思いますので、こちらもたくさんの御意見をいただきながら進めなければならない所だと思います。それも含めて、この小中一貫を実現する課程で、中身のある充実したものにしていかなければならないという思いを込めて、質問させていただきました。ほかにございますでしょうか。</p>
<p>大野委員</p>	<p>私もそのことで少し気になっていたのですが、現在、その適正規模適正配置に関して、小規模校に対しては、年に1回話し合い的なものもやっているかと思うのですが、この小中一貫教育を推進していくと、今後、全体的に小規模校だけではなく、それぞれの地域での話し合い的なものも予定しているのかというのが少し気になっていた所ですが、いかがでしょうか。</p>
<p>荒井教育部長</p>	<p>今年、小中一貫教育をテーマに、市内4箇所で開催しましたが、保護者の出席が極めて低く、また出席された方々につきましては、地域に長くお住まいの方々の出席が多かったということで、子どもの保護者としての御意見は少し足りなかったこと、やり方も含めて工夫しなければいけないと思っております。今後につきましては、各学校へ出向いたり、また、PTA連絡協議会等の場で、そういった所で小中一貫教育のお話をさせていただく機会、そういったものを設けて、少し問題を投げかけてみて、その反応を見ながら、また説明をしていくべきかなと思っております。少し色々工夫をしていきたいと思っております。</p>
<p>中山市長</p>	<p>よろしいですか、この教育プランの12ページの下の表に棒グラフがありますが、これが現状ということで、例えば、今後、5年後、10年後の推計値などを参考にしていくと、現実問題として、今後の適正規模をどのように考えていくかというのは、ある程度、道筋が出てくるのではないかという感じはする所でもございます。それに対しても、どのような方向性を定めていくのかというのをしっかりと市民の皆さんに明示をしていく必要があるのかなと感じている所でもございます。ほかにございますでしょうか。</p>
<p>斎藤教育長 職務代理者</p>	<p>今、小中一貫という言葉が多く、連携から一貫ということが変わってきて、今回の教育市民会議の中で、市民の方には教育委員会が小中一貫教育をどのようにやっていくのかが、また、一貫教育とは何かというのがよく分かっていない部分があったと思います。そういう面で行政側でその辺をどう丁寧に説明し</p>

<p>中山市長</p>	<p>ていくかということは、大事なことなのかなと思います。なぜ一貫教育が必要となってきたのか、また一貫教育のメリットとは何ですかということをもっとはっきり打ち出さなければ、分かりにくいのではないかなと思いました。今まで龍ヶ崎の場合は、特に小中連携ということで、かなりここは密にやってきて、良い成果をたくさん挙げてきています。それをさらにステップアップした形で、一貫へ移行する方向で今作ろうとしているのですが、果たして、それが良いのか悪いのか、保護者や市民はよく分からないと思います。ただし、近隣のつくば市でしているからいいねとか、河内町でできるからいいねとか、施設一体型で見ているような気がします。龍ヶ崎もそうやるんですかというようなこととか、色々な問題がこれから絡んでくるので、少し整理しながら、一貫教育を目指す方向としてはっきり打ち出すのがいいのかどうか別にして、そのメリットとは何か、良さとは何かということをもっと市民ばかりではなく、先生方ももう少し認識持っていないといけないと思います。</p> <p>また、ある小学校からある中学校へといった連携は比較的出来ていますが、これからの学区を考えたら、二つ三つの小学校で連携を図っていかないと小中につながらないと思います。そういう面では、今回の意見で出た小中連携というのは、もっともっと大事にしていかなければいけないと思います。そこにもっともっと強い絆が出来ていかないと、本当の意味での小中一貫にならないだろうという思いもします。だから、そういうことを含めて、もっともっと議論して、話題として、市民、保護者に提供したり、またもっと学校の話にしてもらって、龍ヶ崎の教育をどうやっていくかということの今やっていくべきだと思います。とにかく、こういう形でスタートを切ってますので、うまくそこに具体論も入っていったりして、整理していくともっとスムーズにいくような気がします。そうすると、先ほどの適正規模の問題も、その上で何かが出てくる可能性もあるわけで、やはり小学校も一緒の方がいいのかな、いや規模は規模でやっていくのかということも議論としていく所だと思います。そこら辺を今大事にしたい所だという思いを持っています。</p> <p>はい、ありがとうございます。本当におっしゃられた通りだと思います。教育市民会議の出席者が少なかったというのは、私にとってはショッキングだったというのは、ここでもお話ししました。話を聞くと、小中一貫に移行するんですねということを言われるお父さんお母さんは漠然と新聞を見たり、色々な所で噂を耳にしたりということで、あとは広報等、今回の案内にも小中一貫についてというような内容で、教育市民会議の案内を送った所でもありますが、そういうものを目にしながら、漠然と何となく方向性はわかっているけれども、やはりおっしゃられたように、まだ内容がはっきり分かっていない、何がいいのか、何がデメリットなのか、そういうものをしっかりと市民の皆さんに理解してもらおう。そして、特に保護者の皆様方には、やはりしっかりと認知、理解してもらわなければならない所だと思います。</p> <p>私もそういうプロセスを経なければならぬと思っております。その上で小中一貫をやる際には、何と云っても、カリキュラム、学校経営をされていくのは、先生方でもありますので、その点に関しては、先生方が龍ヶ崎市で教育に当たられている共通の理解というのでしょうか、情報の共有をしっかりとさせていただきながら、龍ヶ崎の教育をどうしていくか、小中一貫教育の中で、どのような教育をしていくかというのは、やはり先生方の力がなければ、できない所でもありますので、ぜひ先生方にも御協力を求めていきたいし、知恵をいただきながら、市民の皆さんにも理解を深めていただきたい。その上で適正規模の問題になるとやはり、施設分離型という話になってくるかと思っております。</p> <p>また、小中一貫の場合、施設一体でやるのかという問題が必ず出てきますの</p>
-------------	---

	<p>で、その辺は今後、龍ヶ崎市の公共施設再編の問題とも絡んでくる所でもありますので、そういう議論もその次の段階にはなるかと思いますが、そういう話になっていくのかなと思います。これについても、やはり分離型と一体型では、内容も変わってくる所も当然出てくると思います。そういう所も、先生方や市民の理解、先生方の知恵をいただきながら、市民の理解を得ていくというプロセスにもなってくるのだと思います。</p>
高橋委員	<p>私も松葉の市民会議に参加させていただきましたが、かなり参加者が少なく、どうしてなのだろうと思ったのですが、私が保護者の立場に立った場合に、小中一貫というのは、結局、一保護者が今選択できる状況ではないからだと思います。自分の子どもが小学校に入学する学齢になったとき、どちらにしますかということであれば、自分でメリット、デメリットなどを調べてたりするのでしょうかけれども、まだそこまでの状況ではないので、そうになりましたとなれば、分かりましたと言って入学はしてくださるのだろうと思います。つまり、そのどちらの制度が良いかというのは、この審議会なり、教育委員会にお任せをするということなのかなと思います。</p> <p>どちらがよいかどうかは、一保護者では分からないので、良い方に改善していただくという信頼の証なのかなというふうに思いました。コメントについても、反対というわけでもないし、当然、賛成というようなことも分からないので、聞きに行きましたという段階なのだろうと思います。ですから、分からないからやるというのでは、心もとないので、当然理解というのは大事なのですが、ただ一人ひとりの保護者の方に全てメリット、デメリットを御説明するというよりは、きちんと色々な所のメリット、デメリットを私たちの方が吸い上げて、正しい判断として提示し、然るべきときに、学校の統合もそうでしたが、行政の方から指導、引っ張る形で持っていく部分というのが、保護者の方の理解を待つよりも大事になる所があるのかなと思いましたので、市議会の方にも、お願いしたい所ですし、私自身も勉強していきたいと思いました。</p>
中山市長	<p>はい、ありがとうございます。やはり、市民の理解、保護者の理解を得ていくということは大切だと思いますし、その上で、教育委員会、総合教育会議などで、色々な議論を積み重ねながら、龍ヶ崎市の今後の方針というのは、どこかで明確なものを市民に一目見て分かるような、分かりやすい形での方向性を示すことが大事なのかなと思います。ぜひ、また引き続き御協力よろしくお願ひ申し上げます。審議会の御意見なども大変示唆に富んだ御意見が出ておりますので、こういうのも市民の皆さんにも御紹介できる機会を検討していただければと思います。限りはあると思いますが、読んでいただくことの努力というのは、大変難しい所ではありますが、そういう機会はずいぶん作っていただきたいと思っています。ほかにございますか。</p> <p>それでは特に無いようですので、この議題については、これで終わりにさせていただきます。次第のその他でございますが、委員の皆さんから何かございますか。それでは、その他も無いようですので、本日の次第にあります案件は全て終了いたしました。皆様の慎重審議に感謝を申し上げます、私の議事進行のお役目を終えさせていただきます。ありがとうございました。</p>
事務局	<p>はい、ありがとうございました。次回の予定でございますが、次回は平成29年2月頃を予定しております。詳細は追って御連絡差し上げますので、よろしくお願ひいたします。以上でございます。</p>